

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.2.5 No. 65 連絡先 FAX 042-555-1911



沖縄・名護市「米軍新基地反対」を訴えた稲嶺進氏が市長に！

1月24日に投開票された沖縄県名護市の市長選挙は、民主、共産、社民、社大(社会大衆党)各党などが推薦する新人の稲嶺進氏が当選しました。自公両党が支援する現職で基地建設容認の島袋吉和候補との大接戦を制しての歴史的な勝利です。(上写真:辺野古テント隣りの看板)

稲嶺氏は当確後「辺野古に新基地をつくらせないという約束を、しっかり信念をもって貫きたい」と話し、「基地頼みの地域振興策では市民の暮らしはよくなる」「公平公正、透明な市政へ変革しよう」という訴えも有権者の心にとどいたと語りました。

辺野古沖に普天間基地の代替えのへり基地建設計画が持ち上がり、住民投票が行われたのは1997年でした。民意は基地建設反対でしたが、日米政府の新基地押しつけ、名護市長の基地受け入れ容認、市長選も「基地頼みの地域振興策」で巨額の費用が使われるなど、基地建設反対の市長は誕生しませんでした。「60年安保」から50年目の2010年、基地ある限り事故や犯罪はなくなる「沖縄にもう基地はいらない」の民意が、選挙で力強く示されたのです。

名護市長選 地元紙「大きな地殻変動」、米大手紙も一斉に報道

1月25日付沖縄タイムスの社説は「名護市長選は今後、『日米安保＝基地提供＝沖縄』という戦後日本の安保政策を終わらせるきっかけになるかもしれない。日米安保改定50周年の節目の年に、大きな地殻変動が起きようとしている」と報じました。

アメリカのワシントン・ポスト紙は「小さな町の選挙が日米関係に大きな衝撃を及ぼすかもしれない」(24日付電子版)。ニューヨーク・タイムズ紙も「日本政府は2006年の日米合意を廃棄するか、少なくとも修正せざるを得ない」(同)と書いています。



安保改定50年 条約破棄の世論を広げよう！

左の写真は、横田基地のフェンスに貼られた看板です。

「警告 在日米軍基地 基地司令官の許可なく、此の区域に立ち入ることは、法律違反である。当該に居る間は、すべての人は身体及び所持品の捜索を受けるかもしれない。不法な立ち入りは、日本国法律によって罰せられる。

(刑事特別法第2条 昭和27年5月7日 法律第138号) 当該施設は軍用犬により巡回されている。」

「法律違反」と日本人を威嚇していますが、戦争のための米軍基地があることこそ「憲法違反」です。下の写真は辺野古のキャンプ・シュワブの鉄条網です。日本も米軍基地をなくして、世界の平和の流れに合流しましょう。



由美子ちゃん事件と宮森小学枚ジェット戦闘機墜落事故 (No. 65 裏面)

沖縄戦から10年、アメリカの占領下で悲惨な事件が起きました。

1955（昭和30）年9月3日、沖縄本島中部にある旧石川市（2005年4月1日、2市2町が合併、現うるま市）の6歳の由美子ちゃんが、夕方から行方不明となり、翌日死体で発見されました。犯人は、由美子ちゃんを車で拉致して、嘉手納基地に連れ込み、軍の施設内で何度も何度もレイプし、最後には殺し、その遺体を嘉手納の米軍部隊のゴミ捨て場に捨てたのです。「少女は暴行を受けた形跡がありシミーズは左腕のところまで垂れ下がり、口をかみしめたまま死んでいた」と、9月4日付『沖縄タイムス』夕刊は報じています。

そして、由美子ちゃん事件の起きた1週間後に再び、9歳の女の子が米兵によってレイプされたのです（第2の由美子ちゃん事件）。同年9月10日夜12時頃、具志川村の農家宅の戸口をこわして開けようとする物音に、夫妻が気づき、夫が戸を開けると米兵がクツのまま座敷に上がり込み、女を出せと脅迫、いないと答えたがしつこく迫るので驚いた夫は11歳の長女を裏口から逃し、小学2年生の9歳の次女と6歳の長男、4歳の次男の3人を寝かせたまま隣人の応援を得るため出たすきに、次女が拉致されていました。夫婦は隣人と付近を探していたところ、約20分後、次女が下腹部に血を流しながら泣いて帰って来たというのです。

当然のことながら、沖縄の各地では次々と怒りの声があがり、「子どもを守る大会」が開かれました。この事件をきっかけに結成された「子どもを守る会」では、那覇で緊急会議を開き第2の由美子ちゃんを出さないために運動の方針と目標を協議。9月16日、事件の地元石川市で開催された住民大会には1000人が集まり、裁判の公正を訴える声明を発表しました。

（1995年9月4日、3人のアメリカ兵が小学生の女の子をレイプする事件が起きました。赤いランドセルをしょって小学校に通っている少女が、体の大きな3人ものアメリカ兵に拉致されて、順番に犯された事件が起きたのです。沖縄では怒りの大集会が開かれました。）

由美子ちゃん事件のショックが癒えぬ石川市で、1959年6月30日午前10時30分、宮森小学校にジェット戦闘機が墜落するという大惨事が発生しました。（由美子ちゃん事件 で検索を）

フリー百科事典『ウィキペディア』では次のように記しています。「1959年6月30日午前10時40分頃、アメリカ空軍F100Dジェット戦闘機が操縦不能となり、パイロットは空中で脱出、機体は民家35棟をなぎ倒した後、石川市にある宮森小学校（現うるま市立宮森小学校）のトタン屋根校舎に衝突、さらに隣のコンクリート校舎を直撃し、炎上した。」「事故による火災は1時間後に鎮火したが、死者17人（小学生11人、一般住民6人）、重軽傷者210人、校舎3棟を始め民家27棟、公民館1棟が全焼、校舎2棟と民家8棟が半焼する大惨事となった。事故当時、学校には児童・教職員ら約1000人がいた。当時は2時間目終了後のミルク給食の時間で、ほぼ全児童が校舎内にいた。特に直撃を受けた2年生の教室の被害が最も大きく、火だるまになった子供達は水飲み場まで走り、そのまま次々と息絶えたと伝えられている。」

（そして、2004年、宜野湾市の沖縄国際大学に、ジェット戦闘機が墜落したのです。）

安全管理に何時間もかけていたら戦争できない！ここは軍隊だ！



1月28日、綾瀬市の住宅に、米海軍戦闘攻撃機FA18からパイプ状の金属製部品を落下させました。平和委員会などが2月1日、在日米海軍と厚木基地司令官に対し、原因の究明と再発防止、住宅地上空での飛行中止を求めて抗議と要請を行いました。「原因が明らかになるまで飛行中止」を求めると基地渉外部長は、「安全管理に何時間もかけていたら戦争できない。ここは軍隊。」と開き直りました。許せません。（記事と写真：神奈川平和委員会提供）